



く う な ん



36号のメニューー

◇ 巻頭言

◇ 執行部
一年を振り返る

◇ 新執行部の紹介

組長 天野 廣海
副組長 神 正真
副組長 原 幸
副組長 土井 清信
相談員 中井 恵滉

◇ 俱会一処

【追悼の言葉】

◇ 連研始まりました

◇ トピックス

誕生！
住職継職法要
庫裏新築
お嫁にきました

◇ 編集後記

巻頭言

▼三月十一日宇宙飛行士、土井隆雄さんと日本初の有人宇宙施設「きぼう」に乗せたスペースシャトル「エンデバー」の打ち上げに成功した▼国際宇宙ステーションは、太陽光を反射して明るい時にはシリウスと同じマイナス1・5等星の様に見えるそうだ▼輝く無数の星を眺めていると「光年」と言うとてもない距離感もさることながら、天空のはるか彼方で何が生じ、何が起っているのだろうかと思いをはせる▼時空を超越した「大いなるもの」のはたらきを今、ここに生きる私達が感じさせられる▼無限の時間の流れを無量寿と、無限の空間のひろがりやを無量光と味わうならば、まさに無量寿・無量光こそ「大いなるいのちの世界」であり、それは阿弥陀仏である▼天空の彼方から感じさせられる大いなる「いのち」の世界のはたらきかけを通して阿弥陀仏の救いの世界をまた深く味わう事が出来る▼この度、組の新たな体制のもと、広報部も「きぼう」をもって出発しました。何卒宜しくお願い致します。

合掌

□執行部、一年を振り返る□

空知南組組長 天野 廣海



昨年、組長を拝命以来早一年が経とうとしております。私自身素行錯誤の中、無我夢中でここにたどり着いたというのが今の偽らざる心境であります。その間、各寺ご住職様始め皆様方のご指導ご協力を仰ぎながら、組の運営・基幹運動推進に取り組んで参りました。

私どもの任期中、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要がお勤まりになります。このご勝縁をこの上ない機縁とし、宗祖のみ教えこそ私たちの道しるべであり、そのことを人々に伝えていくことが私たち僧侶の樹つべき使命であると受け止め、組の統一テーマを『み教えに樹つ』とさせて頂いたいただきました。その宗祖のご恩に应える道こそが、み教えに学び、人々の苦悩に应え得る伝道に務めること、これを任期中の基本姿勢として掲げ、各部活動方針を立案し、各部長担当の皆様が一丸となって活動を展開実施し、実利ある基幹運動の推進を担っていただきました。

特に六月には組仏教婦人大会が中ブロック会員の皆様の企画立案運営により、六一一名のご参加を得て開催されましたこと、これひとえに仏协会会员坊守様の平生のご教化の賜と深い敬意を表させて頂いたいただきます。

また第十期「連研」が新しいスタッフのもと開講し、受講生一人ひとりが第一線に立ち、門徒から大衆へと、その役割を担って下さるよう期待しております。「ホームページ」も刷新され、組の様々な情報が逐次閲覧できる体制が出来上がりました。また「ビハーラ」・「同朋運動連続講座」・「くうなん塾」も共に学び自由に語り合う中で課題の共有化を図って参りました。

二十年度は更なる運動推進に向けて今年度の各部の活動の総括を受け『み教えに樹つ』のテーマが只かけ声に終わることなく、七五〇回大遠忌法要に向け、そのお心を実践し具現化すべく、皆様方のご意見等を承りながら施策を実施して参りたいと思えますので、何卒本年も宜しくご協力の程をお願いを申し上げます。

(写真：組会の様子)



空知南組副組長 神埜 真



「今日、晩ごはんいらなから〜。」
「また会議なの〜。」
神埜家の基本的約束事では、夕食は家族全員そろうまで待つ(午後八時頃までは)とります。家族の冷たい視線の中、度々天野家の夕食をいただくようになって早や一年が過ぎました。元来なまけもので「明日できることは今日しない」私が一年間なんとか務めることができましたのは、前任の高橋氏の書類を参考とさせて頂いたこと、また皆様のご寛容な心に助けられたことと、大変有り難く思っております。

今後四年間は特に大遠忌関連の行事が続きますので、できるかぎり間違いや遅れないように務めたいと思っております。力不足ではありますが、どうぞあたたかくご指導ご協力下さいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

(写真：くうなん塾)



空知南組副組長 原 正幸



一年前、天野新組長より副組長(会計担当)の就任依頼があり「私でいいのかな?」と思いましたが、数字

には多少の自信がありましたので引き受けさせていただきました。しかし、実際の会計にはとても煩雑な作業と本山会計要項の複雑さとの戸惑いの連続でした。

組内皆様に迷惑をお掛けできないと思いつつ、いながらのあつという間の一年でありました。

これからの任期中には、組や教区の口数調整など様々な事があるのですが、まだまだ未熟者ですが、組内皆様のご指導ご協力を得ながら進めていきたいと思います。

(写真：第1回
同朋運動連続
講座)



空知南組副組長 土井 清信



皆様には各ご寺院での活動に加えて、組やくうなんの諸事業への取組みなど、この一年本当にお疲れ様でした。あまり仕事らしい仕事をしていない自分には、未だに自分が副組長ということに疑問と違和感を感じながらも、お彼岸を前にせつせと境内の雪山を崩している毎日に、身体は正直に反応し熟睡の毎日です(スイマセン)。

連絡事項といたしまして、昨年教区に勤式連絡所が開設されました。始まりの一年目は巡讃資格試験を受けることを目標に数名の方が八回に亘って声明全般を学ばれました。今後は得度習礼や教師教修に臨まれる方や、より習練を目指す人が復習したい方などのためにカリキュラムが設定されますので、是非活用していただきたいと存じます。本年札幌別院の報恩講で帰敬式が執り行われます。内願法名の場合は二カ月以上前の申請となりますからご注意ください。

(写真：布教実演 研修会)



空知南組相談員 中井 恵滉



先日の部長会議の挨拶で組長さんは、無我夢中の一年だったと、謙遜されておられました。傍らで、私は右往左往だったと思っていました。各部活動等実感も持っていない中で、この職責を引き受けてよかったのか、実際、苦慮しました。しかし、励まされたのは部長さんはじめ部員の皆さんが、熱意をもって取り組まれていたことです。

活動そのものを自らの研鑽と受け止め、組活動の活性化が自坊の活性化につながって行く姿を感じさせてもらいました。前執行部の活動精神を受け継ぎ、進展させたことの思いから「くうなん塾」など、新企画も盛り込んで進めた一年でしたが、企画意図の浸透等、試行錯誤の一年でもありました。過ぎてみて、その結果がベースにもなったと思います。この基礎を次年度に生かしていきたいと思

藤堂西涯師を偲ぶ

西願寺 西川宗一

西本寺前住職藤堂西涯師は、空知南組組長、北海道教区会議長の役職を経歴された当教区の重鎮であった。勿論、人格識見ともに優れたお方であった。

一方、大変趣味ゆたかなお方で、その尺八の技量は抜群、坊守憲子さまとそのお弟子さんの奏でお琴との合奏は同寺報恩講の看板行事であった。お茶は裏千家で、私も若い頃手ほどきを受けた。おかげで、今もなんとか飲む作法ぐらいはできる。また、手跡も美しく年期が入っていた。「平田水語稲花香」の行がある漢詩屏風一雙は、師の先生が書いたものと承っている。昔はお寺の周りにはみな水田だった。だからこの句は脳に焼き付いている。

大分昔、国道拡幅にともない境内を整備された。その時造営されたのが「観経の庭」である。西南隅の鐘楼を高岳に見立てながらも、西北隅の石組を滝口として、正門のあ

たりで緩やかな流れとなる。所謂、枯れ山水である。植え込みを透して遙かなピンネシリの山々が、そして落日が望める。師はその先にお浄土を想いながら、残照に佇んでいられたのであろう。

隠居なされてからも、何時も折目正しい装束で端座されていた。そこには、お若い時からの鍛錬が見事な美しさとなつて、静けさをたたえていられたのである。

昨平成十九年五月ご往生なされ、そのお葬式に伺った。そこで、岩橋成信師にお会いできた。岩橋氏はここで僧となられた。以来八十年交流が続けられていく。ともに古い縁を大切にされる気風が尊く思えた。つくづく名残惜しいと思つている。

浄耀院釋西涯



合掌

教覚寺前坊守さまを

偲んで

唯専寺 吉野文子

教覚寺前坊守さまがお浄土へ旅立たれてから早、半年近くになります。静かなお方坊守として、誠に尊敬したいお方でございました。

おとなり同士の角田と栗山ですので、いつも気軽に長いおつき合いをさせてくださいました。奥さまとは、結婚も同じくらいで、おたがい同じ村に嫁いでまいりました。ご因縁の深い方です。

それ以来奥さまをおしたいしながら今日まで、いろいろとお世話になつております。どれだけ、となりにいらつしやると思うだけで、心の力となつて下さいましたことです。いつも物静かなお話ぶりが、なつかしく、あたたかいおつ

き合いが目につるようです。

お子さんを育てながら、ひたすら坊守としておつきし下さいました。私共も奥さまのお徳を心から尊敬し、おしたい申し上げ、思いの一言とさせていただきます。

最後にお会い致しました折、外で草取りをしていらした様で、きれいになつたお庭を指さしてニコツとされて、「草取りのお話を「ごくろうさま」と聞かせていただきます。

合掌

慈照院釋尼妙峯



村上聖師を偲んで

本向寺 靈山千明

昨年十二月、インド ベナレスのガンジス川に九つの花皿が流れていきました。花皿の中にはそれぞれ小さな蠟燭を灯して：村上聖師に初めてお会いしたのは空南会の例会の時でありました。車座になり、会員それぞれが自己紹介し、その一人一人に村上さんは『どうぞ宜しくお願ひします』と礼儀正しく頭を下げておられました。以来、空南会の仲間として共に語り過ごしてきました。

体調を崩されてから暫らくして、久しぶりにお酒を飲みと一緒に出かけた事がありました。少し痩せた感がありましたが非常にお元氣そうで、時のたつのも忘れて飲んだ事が昨日の事のようにあります…。

ガンジス川に訪れた人は、花皿に蠟燭を灯し願いを込めて川に流すそうです。早朝の凜と冷え切った空気の中、舟から流された九つの灯は連なって流れていきました。先に亡くなった方々、村上さん…。浄土での再会の想いをのせて流れていきました…。

崇教院釋了聖



第十期連続研修会スタート

冬の訪れを間近に控えた平成十九年十一月十日、本向寺様を会場とし、第十期連続研修会（以下、「連研」と記す）がスタートしました。



今回の連研は、平成二十一年十一月までの二年間、二ヶ月に一回のペースで、全十三回の開催を予定しています。スタッフは、林寺正憲氏、高橋宗瑛氏、辰田真弥氏、杉原真氏の講師四名、そして靈山千明氏を部長に、部員八名、さらに相談員の中井恵滉氏を加えた総勢十四名で研修を担当していきます。参加門徒数は三十六名で、前回と比べると、若干人数は減ったものの、第三回連研終了時点で、欠席者は第二回時の一名だけと、熱意あふれる雰囲気の中、研修が進められています。

連研は、自ら聴聞に励み、僧侶と共に親鸞聖人のみ教えを伝えるご門徒（門徒推進委員）の養成を目的に、本願寺教団の方針として、全国一斉に始まりました。私たちの空知南組におきましては、今までに九期、連研が開催され、連研修了者三九九名、門徒推進員は二二四名となりました。我が組の連研が、全国にも誇る連研となりえたのは、これも偏に諸先輩僧侶の皆様的情熱、努力、そしてそこに参加されたご門徒の方々の真摯な姿勢、また、それを支えてくださった多くの方

トピックス

誕生おめでとう

こんなに大きくなりました



平成十八年五月二日生
天野 海眞
誓報寺

天野 広道・貴子
第2子（長男）



々のご協力の賜物に他なりません。連研の素晴らしさは、ご門徒の皆さんと共に、僧侶もお育てにあうことだと思えます。私自身、第九期よりスタッフとして参加させていただいていますが、話し合い法座等の研修時はもちろんのこと、送り迎える車中での門徒の方々の会話の中からも、私自身を振り返り、多くのことを学ばせていただきました。人と人との「つながり」を感じ、ともに如来様のおみ法の中に生かされるよろこびを共有する・本来持っているお寺の素晴らしさを、改めて味わう場が連研のように思います。

人間関係の希薄さが叫ばれる現代社会において、故郷のような温もりある連研を目指し、スタッフ一同精進していきたいと思えます。諸先輩方の変わらぬご指導、ご協力の際、宜しくお願い申し上げます。

連研スタッフ 名和 康成

お嫁にきました!

萬行寺

坪井宏慧 友紀

結婚式 平成十九年五月九日

昨年5月、皆様に温かく迎えて頂きまして、結婚式を執り行う事が出来ました。心より感謝いたしております。若さんとはお聴聞に参つていたのが縁となり



ました。真実のみ教えに出会い感激し、お聴聞へと突き動かされました。これからも仏法に聴き、感動を味わい、そして分かち合い、歩んでまいりたいと思います。末永くご指導を賜りますようお願い申し上げます。合掌

◆住職継職法要◆

本向寺 靈山 千明

平成十九年六月九日、有縁のご法中参勤



日は私の誕生日でありましたが、忙しい中

のもと、また大勢の門信徒の見守る中、妙音会の壮麗なる雅楽の調べの中、当山第四世住職継職法要が勤修されました。前日の六月八

でもあり、誰も私の誕生日に気付いてくれず、私自身も忘れていました。稚児練行・法要・式典と終わってしまえば、あつという間の出来事でしたが、心配と緊張の連続でありました。

本向寺の法灯は開基住職 宗信師より一宗師へ、そして信成師より私 千明へと伝えられたことであります。これから後の世代へとお念仏の教えを伝えるべく、四世住職の責任を全うしていきますので、諸先輩方どうぞ宜しくお願い致します。祝賀会では、お世話になった方々に一杯づつビールを注がせて頂きました。(写真)ビールを注ぎながら、これをコップでなく自分の口に注いで飲んだら旨いだらうなと思つてしまいました。合掌



隆王寺 家郷 宗隆

お陰様をもちまして、昨年八月二十六日、住職継職奉告法要を無事終了させて頂いた頂きました。

これ偏に、仏祖の加護と有縁の皆様のお力添えの賜と感謝の気持ちで一杯でございます。

もとより浅学非才、未熟者で一ヶ寺の住職としての器ではありません。

しかしながら、今後はご門徒の皆様と共に寺門興隆ご法義繁盛の為、不惜身命、日々努力精進を重ねてまいります。

今後共、ご指導ご教導の程、何卒宜しくお願い申し上げます。合掌



常光寺 庫裏新築

平成十八年十一月二十日完成

▼ちよつとこだわり▲

近年の温暖化問題もありますが、これからのエネルギーは扱いやすい電気这个时代ということで、オール電化・太陽光発電パネル・ヒートポンプ温水器を採用し、エネルギー消費を抑えた建物を目指しました。

写真は庫裏外観と住職こだわりの薪ストーブです。



◆編集後記◆

新しい『くうなん』が始動してから、ちよつと1年がたちました。

又、ホームページも新たにリニューアルしましたが、皆さんに見てもらえているでしょうか? 不慣れな部長が頼もしい部員にすっかり頼つての1年でした。

ホームページもこのくうなん紙面もより充実させるために、励んでいきたいと思つています。是非皆さんの声も聞かせて下さい!